396 唾液腺機能シンチグラフィーによる Sjögren 症候群の診断の信頼性と予後評価の可能性の検討

藤井博史、久保敦司、塚谷泰司、高木八重子、片山通章、橋本順、柯偉傑、尾川浩一、中村佳代子、橋本省三（慶大・放）　東條毅、津坂憲政（慶大・内科）

これまでに、^{99m}Tc-pertechnetate による唾液腺機能シンチグラフィーが Sjögren症候群の診断基準として有用であることを報告してきたが、今回、時期をおいて本検査を複数回施行した41例の検査結果の変動を検討した。厚生省診断基準による Sjögren症候群の症例（疑い例を含む）では、そのほぼ 20%の症例で摂取率、排泄率等の parameter に変動率 20%以上有意の変動が認められ、それらの変動が口腔乾燥症状の増悪とよい相関を示していた。また唾液腺機能障害が高度の症例では、各種parameter に改善傾向が認められず、重症の Sjögren症候群の唾液腺機能が不可逆性であることが示唆された。

397 標準曲線をもちいたFactor Analysis による Tc-99m PMTの解析と胆道閉鎖症の経過観察

石田治雄，林　奐，鎌形正一郎，上野　滋，加治屋博，半田真一，森川信行（都立清瀬小児病院外科）
山田　修，新海龍二，杉山　卓（都立清瀬小児病院放射線科）石井勝巳，堀池重治（北里大学放射線科）
細羽　実，佐藤友彦（島津製作所医用機器事業部）

Factor Analysis は動態機能解析の目的で各種臓器の動態検査に用いられているが、機能成分の抽出が自動的に行われるために時間的な機能の変化や他の症例の機能との比較ができない欠点がある。われわれは昨年からこの欠点を補うために標準になる機能成分を決めて、この成分曲線をもとにFactor Analysis を行う標準曲線法を考案し用いている。今回は胆道閉鎖症の術後に行っているTc-99m PMTの肝胆道シンチグラフィに本法を用い臨床的に検討するとともにその有用性について報告する。

398 ^{11}C標識エタノール投与後のＰＥＴによる肝および膵の描出

久保聡一、山本和高、間賀田泰寛、米倉義晴、岩崎　康、玉木長良、小西淳二（京大・放核）松永　隆、佐藤信紘（阪大・一内）

^{11}C標識エタノールを日本酒180 mlとともに健常者に経口投与し、Positologica－Ⅲを用いて経時的に上腹部での放射能の体内分布を計測した。初期には胃部に強い放射能がみられ、次第に十二指腸や小腸の一部にも^{11}Cエタノールの移行が認められたが、時間とともにその放射能は減少した。肝には比較的早期よりほぼ均等に放射能が分布し、胃や腸管から吸収されたエタノールの肝への集積が描画されたものと考えられた。肝に続いて膵の描出が認められ、膵内の放射能は検査の最後まで残存していた。これらの結果はエタノールによる肝障害や膵障害の発症機序を考察する際、興味深い所見と考えられる。

399 消化管蛋白漏出評価におけるIn-111トランスフェリン腹部イメージングとα_1-antitrypsin test

油野民雄，横山邦彦，絹谷清剛，渡辺直人，高山輝彦，利波紀久，久田欣一（金沢大学核医学科），上野敏男，竹田亮祐（金沢大学第二内科）

昨年，本学会でIn-111トランスフェリン腹部イメージングによる消化管蛋白漏出診断の可能性に関し報告したが，今回人の体内で生合成される内因性蛋白であるα_1-antitrypsinを利用したclearance testとの比較検討を行い，上記病態におけるIn-111トランスフェリン・イメージングの診断能に関する検討を試みた。その結果，中等度以上の消化管からの蛋白漏出では，イメージングは漏出の有無および漏出部位の診断法として有用であったが，軽度の消化管蛋白漏出の検出には糞便中への排泄率の測定など，なんらかの定量的測定法の工夫が必要と思われた。

400 赤外線分光計を用いた^{13}Ｃ－呼気テストの検討

米島正博，鈴木敏夫，大原裕康，中川禎介，辻野大二郎
染谷一彦（聖マリアンナ医科大学第三内科）
佐々木康人（群馬大学核医学）

^{13}Ｃ－標識化合物投与後，呼気中$^{13}CO_2$を測定する呼気テストは，消化吸収試験として吸収不良症候群の診断に有用である。我々は，赤外線分光計を用いて，^{13}Ｃ－呼気テストの可能性を検討し報告してきた。今回は，標識脂肪酸として，長鎖脂肪酸である^{13}Ｃ－パルミチン酸を用いて正常ラット及び，膵管結紮ラットに呼気テストを施行した。^{13}Ｃ－パルミチン酸10 mg/kg経口投与後呼気中$^{13}CO_2$を６時間連続測定した。正常ラットでは，投与後徐々に上昇するパターンを，膵管結紮ラットでは約１時間まで上昇しその後漸減するパターンを示した。今後，他の標識脂肪酸とも比較検討していきたい。

Presented by Medical*Online